

## 研 修 ( 研 究 ) 報 告 書

令和 2 年 7 月 2 7 日

玉名市議会  
議 長

様

氏 名 近松 恵美子



下記のとおり、参加（開催）しましたので報告します。

参加議員	近松 恵美子		
日 時	令和 2 年 7 月 22 日 ( 水 ) ~ 令和 2 年 7 月 22 日 ( 水 ) 午前・午後 1 時 00 分 ~ 午前・午後 3 時 30 分		
場 所	広島市中区 中央公民館	参加者数	25人
研修(研究)事項	輝きを取り戻す発達障害と言われる子どもたち		
概要及び所見	別紙のとおり		

## 研修報告

テーマ 輝きを取り戻す発達障害と言われる子どもたち

日時 令和2年7月22日 13時から15時半

場所 広島市中区 中央公民館

主催 フーズフォーチルドレン広島

講師 前島由美先生

ねらい 玉名市内で直売所を運営している方からフーズフォーチルドレンの活動について調べて欲しいと☎があったため、ネットで検索したところ、広島での講演があることを知り、参加してお話を聞いてみることにした。また、近年増加の傾向が止まらない発達障害について、改善の実績を持つ、ということであったので、興味深く参加した。

内容 FFC(フーズフォーチルドレン)が目指していることは、全国2万5千個所の保育園の給食をオーガニック給食で、無償化条例をつくること。学校給食は3時間で1万食も作るので無理。業者とのつながりもあり反発もある。今、ミツバチが減ってきている。全世界からミツバチがいなくなったら、4年以内に人類は絶滅すると言われている。2006年から減り始めている。あと20年でミツバチはいなくなると言われている。自然な土壌と取り戻すために、給食をオーガニックにすることが大事。給食が変われば農業が変わる。発達障害の原因は脳内アレルギー。原因は腸内アレルギーと栄養不足(主にミネラル)と考えている。化学物質と栄養不足は神経細胞を細くする。細胞が元気であれば、精神を病むことはない。現在は1才から4歳までのこどもに何万錠の精神薬が使われている。

元々薬は食だった。そして給食を変えることは地球を大切にすることに繋がる。などのお話しとともに、化学物質を減らし、食の改善をしたことで、精神の服薬から解放され、異常行動がなくなったこどもについての症例報告があった。

様式 1

# 研 修 ( 研 究 ) 報 告 書

令和 2 年 7 月 1 4 日

玉名市議会  
議 長

様

氏 名 近松 恵美子



下記のとおり、参加（開催）しましたので報告します。

参加議員	近松 恵美子		
日 時	令和 2 年 7 月 12 日 ( 日 ) ~ 令和 2 年 7 月 12 日 ( 日 ) 午前 10 時 00 分 ~ 午後 3 時 30 分		
場 所	長崎県佐世保市菌ちゃんファーム	参加者数	28人
研修(研究)事項	有機農業について		
概要及び所見	別紙のとおり		

## 研修報告

テーマ 有機農業について

日時 令和2年7月12日(日)10時から15時半

場所 長崎県佐世保市菌ちゃんファーム

講師 吉田俊道先生(大地といのちの会)

ねらい 環境保全のためにも、ミツバチのためにも、人類のためにも化学物質を使用しない農業に立ち戻ることが必要とされながら、そのノウハウがないために、家庭菜園においても、農薬、化学肥料を使っている人がいるのが現状である。今回、ススキのような硬い草を土の上に3か月載せておくだけで、元気な野菜が育つ、ということを通信で知ったために、具体的な農法を知ることと自然栽培の野菜の生育状況を見るために参加した。

内容 午前中は座学、午後は畑を見学して説明を聞いた。

草を使った農法でも従来のやり方は、草を乳酸菌や枯草菌に食べさせて完全に分解させるやり方であったが、新しいやりかたは、普通の菌より先に糸状菌に食べてもらう、つまり糸状菌と野菜の根が繋がるやり方だとお話があった。1㎡あたり5キロの乾燥した草を畝に載せて軽く土をかけてマルチをはり2か月放置するものである。

従来の生ごみや野菜くずを利用した方法と違い、米ぬかやぼかし、細かく裁断する必要がないので手軽であると感じた。実際の畑を見学したが、見事に野菜が育っていた。

また畑に炭を入れることは、微生物の住みかになることや、二酸化炭素を減らす観点からも重要なことであるとして、炭化器にて竹炭をつくる実演をしてくださった。この炭化器を使用すると簡単、短時間で炭を作ることができるため、とても便利であると感じた。

感想 微生物を増やすことで、元気な野菜を作れることが近年分かってきたが、まだ一般化しておらず、そして指導できる人が少ないため、有機農業が広まっているとはいえない現状である。今後は県で指導員を養成し、各市町村に派遣できるような体制を作ってもらいたいと感じた。

市の公民館講座でも有機野菜づくり講座を開催してもらいたいと思うが人材がないことや、取り組んでいる方の農法がそれぞれであるため、どの農法を取り入れたらよいのか、市民も迷うばかりである。

しかし、この農法は、硬い草さえ確保できれば、その他は手が要らないものであり、今後家庭菜園に精出している方々に紹介し、一般化できるものか見極めたいうえ、市でも自然栽培講座として取り上げていただくようにしていきたいと思う。

< 従来の有機農業 > 野菜は菌とつながっている

・食品の安全性や環境との調和などの理由で、農薬や化学肥料などの人工的な農業資材を使わずに、病害虫を回避し生産する農法。

つまり、人の健康、自然環境を守るため、化学肥料や農薬を使わないで病害虫に立ち向かう技術。病害虫は敵で、排除しようという概念から抜け出していない。

(除草、天地返し、田畑輪換、太陽熱消毒、銅剤、天敵、微生物農薬、防虫ネット)

広義の有機栽培・・・化学肥料を使わずに、ボカシ肥料などを使って育てたもの。無農薬とは限らない。

JAS 法による有機栽培農産物・・・3年以上、認可されたもの以外の化学合成農薬や化学肥料を使っていない。

< 新時代の有機農業 (菌ちゃん野菜) > (1年作は2年20kg) 2年作は3年20kg

・生命循環という自然界の営みに沿って、有機物(死んだ生物体)を土に戻し、微生物(菌ちゃん)の力を活用して育てる方法

有機物投入⇒微生物(小動物)が爆発的に増える⇒微生物代謝物質を野菜が吸収してより健康になる。

⇒低分子化された有機物を、微生物を通して植物が直接吸収することでより健康になる。

つまり、人の健康を高めるため、作物をより健康にして病害虫が来る必要のない作物を育てる技術。病害虫にも地球上の大切な役割があり、病害虫は周りにいるのに、病害虫にやられない野菜こそ、健康な野菜である考える。

< 有機農業を大きく分類すると >

○様々な有機物(有機肥料)を畑に投入する

主な有機物・・・魚や肉など食品製造中の廃棄物(米ぬか、油かす、魚粉、骨粉、その他)、食べ残し、下水処理、畜産堆肥、農産物残渣、海藻

これらは急に入手できなくなるかまたは高騰する可能性

マメ科の緑肥作物を育ててすき込むことで、肥料分を供給する

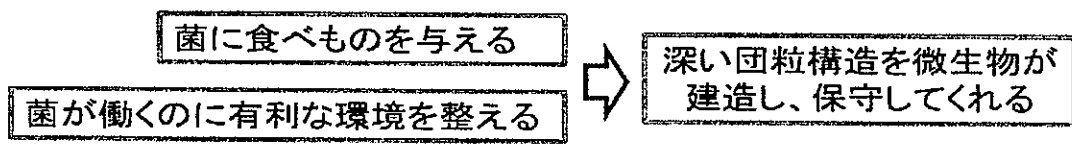
○有機肥料は投入しないが、それ以外のチッソ肥料分にならない有機物(草、竹、木など)は外部から投入する・・・炭素循環農法

○有機物さえも、できるだけ外部から持ち込まない農法

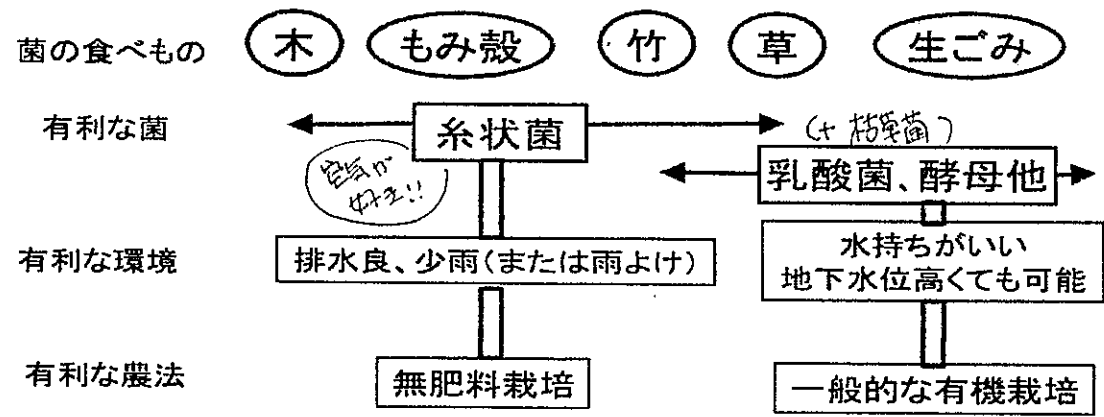
出来るだけ耕さない、機械を使わない・・・自然農

必要に応じて耕す、機械も使う・・・自然栽培

< 菌ちゃん野菜作りのポイントは土作りと微量栄養素 >



→ 団粒構造は10分ほどと短い!!



根コブ菌が好む!!

様式 1

# 研修(研究)報告書

令和2年10月5日

玉名市議会  
議長

様

氏名 近松 恵美子



下記のとおり、参加(開催)しましたので報告します。

参加議員	近松 恵美子		
日時	令和2年10月3日(土)～令和2年10月3日(土) 午前 10時00分より		
場所	玉名市文化センター	参加者数	24人
研修(研究)事項	小岱山薬草の会		
概要及び所見	別紙のとおり		

## 研修報告

テーマ 薬草観察講演会

日時 令和2年10月3日 10時より

場所 玉名市文化センター

講師 渡邊高志先生（熊大薬学教育部教授）

主催 小岱山薬草の会

ねらい 小岱山には薬草が多いことから、玉名市は薬草のまちとしても力を入れているが、一時期の勢いはなくメンバーの高齢化もあり、活動が低下してきているように感じる。そこで、薬草をどのように、市民の健康づくり、市の活性化に役立てることができるか、再度考えてみようと思い参加した。

内容 蛇が谷公園で見つけた有用植物をパワーポイントで説明しながら、薬効についてお話しされた。植物にはいろんな薬効があることはわかったが、身近にない植物は手に入らないし、覚えるもの大変で、さらに実際どの程度身体に効果があるのか実感できないと続かないだろうと思った。

様式 1

# 研修(研究)報告書

令和2年10月27日

玉名市議会  
議長

様

氏名 近松 惠美子



下記のとおり、参加(開催)しましたので報告します。

参加議員	近松 惠美子		
日時	令和2年10月25日(日)～令和2年10月25日(日) 午前 10時00分より		
場所	玉名市文化センター	参加者数	30人
研修(研究)事項	蛇が谷公園		
概要及び所見	別紙のとおり		



## 2回目の薬草観察講演会

日時 令和2年10月25日 10時より

場所 蛇が谷公園

講師 矢原正治先生（渡邊先生が急用のため代理で）

主催 小岱山薬草の会

内容 蛇が谷公園を散策して、見つけた薬草について説明して下さった。  
活用できる植物が沢山身近にあることが分かった。

感想 薬草というより、もっと身近な自宅にもある野草をミネラル補充の意味で食べる、ということに舵を切ったほうが、一般家庭にも普及できるし、そのことで植物を見直し、除草剤などを使わない、地球環境を考えるきっかけになるのではないかと感じた。このことを議会で提案していきたい。

## 研 修 ( 研 究 ) 報 告 書

令和3年1月14日

玉名市議会  
議 長

様

氏 名 近松 恵美子



下記のとおり、参加（開催）しましたので報告します。

参加議員	近松 恵美子		
日 時	令和3年1月12日（火）～令和3年1月12日（火） 午前 10時00分 ～ 午後 12時00分		
場 所	玉名市役所4階会議室	参加者数	42人
研修(研究)事項	輝きを取り戻す発達障害と呼ばれる子どもたち		
概要及び所見	別紙のとおり		

## 研修報告

テーマ 「輝きを取り戻す発達障害と呼ばれる子どもたち」

日時 令和3年1月12日 午前10時から12時

場所 玉名市役所4階会議室

講師 前島由美先生（ゆめの森園長）

主催 玉名市議会 新生クラブ一同

参加者 執行部関係者、保育士、保護者、農業者など60名

### 研修会開催の趣旨

近年発達障害と呼ばれる子どもたちが急増し、市でも支援員を47名も雇用せざるを得なくなっている。増加している、と言うことは何か原因があり、それを知れば増加を食い止めることができるのではないかと、との考えから、発達障害と言われる子どもたちを回復に向かわせた経験をお持ちの前島先生を招き、関係部署や保育関係の方々、保護者とともに学び効果的な対策を考えていくこととした。

### 内容

ミツバチが減っている、というDVDから講演が始まった。ミツバチは植物にとって欠かせない存在であるが、その大量死が問題になってきている。ミツバチがいなくなるとその4年後には人類は滅びるとさえ言われている。そのためには、環境保全型の農業を進めていく必要があり、さらに学校給食をオーガニックのものにすることで、消費を支え子どもの健康も守ることができる、というものである。

その他、発達障害と言われる子どもたちの症状についても詳しくお話があった。(ADHD、LD、自閉症など)しかし実際は、重複していることが多いとのことであった。腸のアレルギーでアトピー性皮膚炎が出現するのであれば、発達障害は脳内アレルギーかもしれないと考えて、添加物や農薬など化学物質を排除した食生活を実践するようになったことで、子どもたちの落ち着きが見られた。さらに、現代食はミネラルが欠乏していることから、施設ではミネラルを多く摂取できる食事にしたところ、さらに子どもたちの様子が落ち着いてきたと言われた。また、発達障害と言われる子どもたちは、過敏なところがあり、天才性を秘めている子どもたちであるので、興味を引きのばすような環境を整えてあげることで、誰にも真似できないようなものを製作することも、とのことで、作品を見せていただいた。

また、問題行動を封じ込めるために薬を飲まされていた子どもが、ゆめの森にきて薬もいらなくなったところに、表情が出てきて自分を取り戻したというお話しがあり、心が苦しくて暴れているにも関わらず、それを薬で抑え込むとは、まるで拷問でないかと、人権無視ではないかと聞いているだけで苦しくな

った。

発達障害が食事を変えることで、問題行動がなくなるということは、まだまだ関係者には信じられないことなのか参加者から積極的な質問はでなかったが、これを布石として、次回に結び付けていきたいと思った。

～講演会～

子どもが変わる 未来が輝く！

輝きを取り戻す発達障害と呼ばれる子どもたち

日時 令和3年1月12日(火) 午前10時から12時

場所 玉名市役所4階

講師 前島由美先生(ゆめの森子ども園)

前島由美先生のプロフィール

25年間保育士として保育園に勤務。その時に、オーガニックな保育園の給食でアレルギー症状が改善していくのを実感。2011年保育士の仕事から療育支援へ移行。急増する発達障害児の原因を探る中、脳内アレルギーと脳の栄養障害という言葉を耳にし、「食べなさや危険」との出会いで著者の国光美佳氏とともに食の見直し(ミネラル補給)による改善に取り組む。

2013年、出雲大社の神気に包まれる地に、天然自然素材の古民家ゆめの森子ども園を開園。衣食住の昔体験を療育に取り入れるべく古民家ゆめの森子ども園を開園。

ミネラル豊富なおやつや食事を子どもたちに提供しながら、鶏、みつばち、ヤギ、ウサギ、犬、猫の飼育、自然栽培によるお米や野菜づくり、カマドでごはんを炊く等昔の生活体験や安心できる居場所づくりで現在小1～高校生まで30数名の発達障害と呼ばれる子どもたちを改善に導いている。

2019年、11月に保護者、学校長、スタッフなどの寄稿とともに、「輝きを取り戻す発達障害と呼ばれる子どもたち」を出版。

主催 玉名市議会 新生クラブ

玉名市においても急増している発達障害と言われる子どもたちに対して、何か改善の方法はないものか、と考えていたところ、前島先生の著書に出会いました。今回、現場の方々や学び意見交換するなかで、このことについて市が積極的に取り組むように我々も効果的な施策を打ち出ししていきたいと考えております。



ゆめの森子ども園  
愛の関わりと連携の実例集

輝きを取り戻す

“発達障がい”と呼ばれる  
子どもたち



感覚過敏からくる問題行動や不登校――

苦しい状況に置かれた子どもたちを救う、

ゆめの森子ども園の取り組みを紹介！

ここでは愛の関わりと食事は命、学校・家庭・民間者の連携がありました。

発達障害とゆめの森の連携で実践した事例集

※ 小児科医との連携で輝き戻る事例

※ 著者に寄せられる質問・解決への具体的な回答



ゆめの森子ども園代表  
前島由美 著

## 研 修 ( 研 究 ) 報 告 書

令和3年3月16日

玉名市議会  
議 長

様

氏 名 近松 恵美子



下記のとおり、参加（開催）しましたので報告します。

参加議員	近松 恵美子		
日 時	令和3年3月14日（日）～令和3年3月14日（日） 午後 2時00分 ～ 午後 4時30分		
場 所	フードパル熊本 多目的ホール	参加者数	45人
研修(研究)事項	コロナ禍の家族と地域をつなぐ家族療法と家庭教育支援		
概要及び所見	別紙のとおり		

## 研修報告

テーマ「コロナ禍の家族と地域をつなぐ家族療法と家庭教育支援」

日時 令和3年3月14日（日） 14時より16時半

場所 フードパル熊本 多目的ホール

主催 熊本県平和大使協議会

講師 亀口憲治先生（国際医療福祉大学大学院教授）

内容 「40年前欧米では家族崩壊が出現し、その必要性から家族療法が生まれた。日本では家族療法は必要ないかと思ってきたが、昨今不登校は増え、大学生の不登校、大学院生の不登校もいる。日本にも家族崩壊の時期がきたが、専門家がないという問題に直面している。臨床心理士や公認心理士の資格制度もできたが、併せて7万人しかいない。児童相談所でも、ベテランは2割に過ぎず、4割が新人という実態である。専門家の養成ができていない。DVや児童虐待などの問題に対応する力が育ってない。

また、欧米人は自己主張が強いので、絡まった家族間の問題の交通整理をしてあげればよいが、日本人は気持ちを呑み込み表現しない、我慢が美德とと思っているので、問題を突き詰めるよりも、粘土療法や絵画療法で何となく納得する形が合っている。家族療法は犯人捜しをしないセラピーである。

粘土は柔らかいので、触れていると心身がほぐれてきて、その場が安全で楽しい雰囲気となる。そこで、本当の気持ちが出やすく、空気を読むことの上手な日本人は満足感を得ることが多い。笑顔が出たりする。県中央児童相談所や精神保健センターに家族療法室の設置が望ましい。」

このようなお話しであった。実際、面接場面のビデオを見せていただいたが、粘土で遊びながら、ちょっとした会話で輪に入ってなかった娘さんの心がほぐれていったのを感じ、粘土を使った家族療法というのは、面白いものだと感じた。

幸い、熊本のベテランの心理士さんが、NPO法人を立ち上げ、家族支援の研修会を市町村の要保護児童担当職員向けや施設のファミリーソーシャルワーカー向けに開催できる、ということであったので、後日詳細を伺いにいき、玉名市にも導入を勧めたいと思った。

# 熊本県の使命と未来・2021フォーラム

世界を震撼させている新型コロナウイルスですが、このコロナ危機を通して、社会の基本単位が「家庭」であることが改めて明確になりました。

熊本県では、全国に先駆けて2013年4月に「くまもと家庭教育支援条例」が施行され、毎月第1日曜日を「家族の日」とし、家族みんなで話し合い、楽しく健全で明るい家庭づくりの日として提唱しています。

三菱UFJフィナンシャル・グループの総合シンクタンクの調査の結果、「子育ての悩みを相談できる人がいる」と答えた割合が、2002年で73.8%だったのが、2014年には43.8%に急減しており、子育て家庭の孤立が浮き彫りになっています。家族機能の弱体化と、家族を支える地域社会の希薄化をこれ以上、放置することはできません。

この度は、家族療法を40年間取り組んでこられた第一人者・亀口憲治先生をお迎えして、貴重なご講演を頂戴する機会を持つことが出来ました。皆様におかれましては、ご多忙の中とは存じますが、万障繰り合わせの上ご来場を賜りますようお願い申し上げます。

## 記

日時: 令和3年(2021年)3月14日(日)

受付 午後1時30分

開会 午後2時

閉会 午後4時30分

会場: フードパル熊本 多目的ホール

熊本市北区貢町581-2

TEL:096-245-5963



## テーマ「コロナ禍の家族と 地域をつなぐ家族療法と家庭教育支援」

講師: 亀口 憲治 先生

(国際医療福祉大学大学院教授、東京大学名誉教授)

福岡県生まれ、九州大学大学院教育学研究科博士課程全単位取得、ニューヨーク州立大学フルブライト研究員。福岡教育大学教授、東京大学大学院教育学研究科教授、同大総長補佐、同大臨床心理学コース主任教授、学生相談所長等を経て、現職、東京大学名誉教授。放送大学客員教授。家族心理士・家族相談士資格認定機構 理事長なども務める。博士(教育心理学)。専門は臨床心理学、家族療法、家族心理学、システム心理学。著書に『家族システムの心理学』『家族療法的カウンセリング』『家族力の根拠』『心理療法ハンドブック』『家族療法』他。



参加費: 1000円(正会員500円)

主催: 熊本県平和大使協議会 議長 岩下栄一

熊本市中央区尾ノ上2-9-21 第25三共ビル134号室

担当: 中山信也(090-8295-7935)



## 先進地（現地）調査報告書

令和3年3月29日

玉名市議会  
議長

様

氏名 近松 恵美子



下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調査議員	近松 恵美子
日時	令和3年3月24日（水） 19:00～21:00 18人 令和3年3月25日（木） 9:00～14:00 1人
調査先	出雲市ゆめの森こども園
調査事項	発達障害の療育の実態と保護者の受け止め方について
調査先面会者	前島 由美（ゆめの森こども園園長）
概要及び所見	別紙のとおり

## 調査研究報告

テーマ 発達障害の療育の実態と保護者の受け止め方について

日時 令和3年3月24日～25日

場所 出雲市ゆめの森こども園（放課後デイサービス、フリースクール）

ねらい 急増している発達障害と言われる子どもたちの療育を通して、問題行動を改善してきた、と講演や雑誌で見聞きしてきたが、果たして食べ物を改善することで、どの程度問題行動が減少するのか、その他にも要因があるのかを実際見て確認したい、との思いと保護者としてどのように感じているのかについても声を聴いてみたいとの思いでこの施設を訪問することとした。

内容 24日は、午前中議会運営委員会が開催されることとなったため、急遽出発時間を変更せざるを得なくなり、到着が午後6時となってしまった。しかし、夕食後保護者の会合があったため、保護者と話しをする機会を得ることができた。

翌日は、施設見学をした。施設は天然素材で建設されており、落ち着いた雰囲気建物であった。犬、猫、ヤギ、鶏を飼育しており、また、畑や空き地が広いため、子どもたちは自由に遊んでいた。施設は開放的であり、子どもたちは自由に仲間同士で遊んでいた。会話においても行動においても子どもたちが落ち着いており、どこが障害児と言われる部分なのかわからないほどであることに驚いた。

講演でも、雑誌でも紹介されていた、「公ちゃん」と言う子どもにも会った。この施設に来るまでは、破壊的な行動があり、家の中は地獄のようだったそうだが、ここに来てから落ち着いてきたようで、問題を感じなかった。母親からもその経過についてお話を伺ったが、講演で前島さんが話されたとおりで、その変化に驚くばかりであった。別のお子さんについても保護者からお話を伺ったが、この施設にきたことで、化学物質の怖さを知り、柔軟剤など家庭内の化学物質を減らし、食事もオーガニックのものにしたところ、まず身体症状が取れ、それから気持ちも落ち着いてきて、定時制高校に通うことができるようになったと話されていた。

発達障害ということで、服薬させられていた子どもも、手が付けられないほどの問題行動があった子ども、不登校の子どもも、この施設にきて、自然なものを食べることで、自然の中で遊ぶこと、否定されないことなどの日々で、問題行動もなくなり、落ち着いた生活ができていることがわかった。それだけでなく、この施設では、子どもに振り回されて辛い思いをしてきた親の心を受け止め、包み込み、励まして

いることを感じた。

今まで、10年間、発達障害と言われる子どもが増加するばかりで、何が原因で、どのように対応することがよいのか、具体的な対策を打ち出すことができなかったが、7月に広島で聞いたお話し、1月に玉名市役所で聞いたお話し、そして本や雑誌の記事から得た情報、これらをもとに、実際現場を見せていただいたことで、これから向かうべき道筋が見えてきた感じがした。

大切にすべきは、

- ① 自然な食べ物
  - ② 自然の中で遊ぶこと
  - ③ こどものよいところ、才能を見つけていくこと
  - ④ 親を支援していくこと（親が病んでいる人がいる）
  - ⑤ できるだけ自然素材の環境で過ごす（化学物質を避ける）
- ことであると実感した。

百聞は一見に如かず、という言葉があるが、直接お話しを聞き、子どもたちと触れ合い、自然素材の食事を共にできたことは大きな成果であった。